

## コロサイ1章15節の考察

# 御子は造られたすべてのものに優る卓越した御方

### NTTOB 福島 勲

キリスト者の信仰は「聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによる」（ロマ10:17）。しかし、悪魔サタンは、みことばの真理から逸らそうと今も働き続けております。

今日、ものみの塔協会あるいはエホバの証人と呼ばれる団体では、三位一体を否定し、御子キリストは被造物であり、人となる前は御使いミカエルであると教えています。これは大変な異端であると言わねばなりません。聖書の真理を曲解するものです。

エホバの証人が曲解して教え、また、キリスト者にも誤解されやすいコロサイ1章15節を選び、その正しい理解を得るために参考資料を調べてみました。

1:15 御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。

1:16 なぜなら、万物は御子にあって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も権威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです。

1:17 御子は、万物よりも先に存在し、万物は御子にあって成り立っています。

1:18 また、御子はそのからだである教会のかしらです。御子は初めであり、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、ご自身がすべてのことにおいて、第一のものとなられたのです。

1:19 なぜなら、神はみこころによって、満ち満ちた神の本質を御子のうちに宿らせ、

1:20 その十字架の血によって平和をつくり、御子によって万物を、御子のために和解させてくださったからです。地にあるものも天にあるものも、ただ御子によって和解させてくださったのです。

（コロサイ人への手紙1章15～20節／新改訳）

## Ⅰ. コロサイ書の執筆事情

パウロが第3回伝道旅行の折、エペソに3年間滞在し、「アジアに住む者はみな、ユダヤ人もギリシヤ人も主のことばを聞いた」（使徒19:10）とある。コロサイ教会の基礎を築いたエパfras（コロサイ1:7）は、この時信仰に入ったものと推測されています。そのコロサイ教会には深刻な問題が起こった。異端思想の侵入。それは福音の純正さと教会の平和とを腐食するもので、具体的には、主に次のような類のものであった（新聖書注解・新約3・コロサイ参照）。

①パウロが、1:15-20、2:3,9で、キリストの十全なる神性、十分性、究極性を力説しているところから、この異端は、キリストの人格を引き下げ、彼のわざを過小に評価しようとする傾向を持つものであったことがわかる。

②1:22、2:9で、イエス・キリストの十全な人性、肉と血とをとられた人間としてのキリストが強調されているところから、この異端は、キリストの受肉の現実性を軽視していた。

③パウロが「あのむなしい、だましごとの哲学」（2:8）と警告していることから、この異端がギリシヤの思弁的性格のものであったことがわかる。

④割礼への言及（2:11,3:11）、「人の言い伝え」（2:8）に対する警告、食物に関する規定、祭りや新月や安息日に関する（2:11-16）誤ったユダヤ教的教え等に言及されているところから、この異端が、ユダヤ教的要素や禁欲主義的性格を持っていたことがわかる。

エパfrasはこれらの問題にどのように対処すべきかを相談するためにパウロを訪問した(1:7-8)。しかし、パウロはこの時獄中にあり、またエパfrasもローマにおいて捕らえられたので(ピレ23節；コロ4:12)、パウロはこの手紙を書き、テキコに持たせてコロサイに送った。

コロサイにおける異端の背景には、霊は善であり、物質は悪であるという二元論があった。それゆえ絶対的善である神が悪である物質を造るはずはなく、創造のわざは神よりも一段低い存在である造物者(Δημιουργός デミウルゴス)に帰せられた。また人間は肉体を持っているので直接神と交わることはできないので、御使いの仲介が必要であると考えられていた。

これらの誤った教えに対し、パウロはキリストが創造者で、宇宙の支配者であると同時に、教会のかしらであること(1:15-18)、キリストこそ真の神であり、唯一の仲保者であること(1:19-22)を強調し、キリストのこのような特異性に反することを教える者は、真理からはずれていると断言した(1:23；2:8)。

※ デミウルゴス(ギリシア語：Δημιουργός、英語：Demiurge)は、プラトンの著作である『ティマイオス』に登場する世界の創造者である。ギリシア語では「職人・工匠」というような意味である。プラトンは物質的世界の存在を説明するために、神話的な説話を記した。

## Ⅱ. コロサイ1章15節後半の解釈

### 1. いろいろな翻訳とギリシャ語原文との比較

- ①新改訳：御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。
- ②口語訳：御子は、見えない神のかたちであって、すべての造られたものに先だって生れたかたである。
- ③新共同訳：御子は、見えない神の姿であり、すべてのものが造られる前に生まれた方です。
- ④文語訳：彼は見得べからざる神の像にして、萬の造られた物の先に生まれ給へる者なり。
- ⑤永井直治訳：彼は見えざる神の形におわして、すべての創造の長子なり。
- ⑥万葉文会訳：おん子は目に見えない神の生き写し、すべての造られたものに先立って生まれたかた。
- ⑦バルバロ訳：子は目に見えぬ神の姿であって、すべての被造物の長子である。
- ⑧柳生直行訳：御子は、目に見えない神の、目に見える像であり、全被造物に先んじて最初に生まれたお方である。
- ⑨詳訳：〔さて〕彼〔御子〕は、見えない神のそのままのかたち〈不可視的なものの可視的表現〉です。彼はあらゆる被造物の最初に生まれたかたです。
- ⑩現代訳：キリストは、私たちの肉眼では見ることができない神と等しい方であり、神がこの世界をお造りになされる前から存在しておられた方である。
- ⑪ルビゲル訳：キリスト様は、目に見えない神様の生き写しの方であり、神様がまだ何もお造りにならない前から、生きておられました。
- ⑫エホバの証人・新世界訳：彼は見えない神の像であって、全造物の初子です。
- ⑬KJV：Who is the image of the invisible God, the firstborn of every creature:
- ⑭NKJV：He is the image of the invisible God, the firstborn over all creation.
- ⑮J.N.DARBY：Who is the image of the invisible God, firstborn of all creation:
- ⑯NIV：He is the image of the invisible God, the firstborn over all creation.
- ⑰TEV：Christ is the visible likeness of the invisible God. He is the first-born Son, superior to all created things.

⑱ギリシャ語 : ὅς ἐστιν εἰκὼν τοῦ θεοῦ τοῦ ἀοράτου, πρωτότοκος πάσης κτίσεως,

⑲行間訳 (ギリシャ語・英語・日本語) :

ὅς	ἐστιν	εἰκὼν	τοῦ	θεοῦ	τοῦ	ἀοράτου,	<u>πρωτότοκος</u>	<u>πάσης</u>	<u>κτίσεως</u> ,
関代)主男単	動)直現能3単	名)主女単	冠)属男	名)属男単	冠)属男	形)属男単	形)主男単	形)属	名)属女単
who	is	an image	of the	God	-	invisible	<u>firstborn</u>	<u>of all</u>	<u>creation</u>
この方～	～です	肖像、形	その	神	その	目に見えない	<u>初子、長子</u>	<u>すべての</u>	<u>創造</u>

## 2. 新約ギリシャ語辞典による説明

キーワードは、「先に生まれた方」(firstborn、初子、あるいは長子)と訳されている☒プロトトコス (πρωτότοκος) という言葉です。

この言葉は新約聖書で8回 (ルカ2:7、マ8:29、コ1:15, 18、ヘブ1:6、11:28、12:23、黙1:5)、ギリシャ語旧約聖書 (70人訳) では128回使用されています。

### ①玉川直重「新約聖書ギリシャ語辞典」

πρωτότοκος,-ον : (< πρῶτος, 第一の, τίκτω, 産む) 長子の, first-born. ① [名] 長子, first-born (ルカ 2:7, ヘブル 11:28). ② [名] (すべての被造物に先だって生まれた) 長子 (キリスト), the first-born (of all creation) (ロマ 8:29, コロ 1:15, 18, ヘブ 1:6, 12:23, 黙示 1:5)

### ②岩隈直「新約ギリシャ語辞典」

πρωτότοκος,-ον : [< τίκτω] ☒ 最初に生まれた ; υἱός ~長男 ; ルカ 2:7. τα ~ α 初子, 長子 (すべて最初に生まれたもの) ; ヘブ 11:28. 《比》ロマ 8:29, コロ 1:18 (「生まれる」という観念は殆どなく, 「最初 (第一) の [者]」の意. 1:15 も同様か), ヘブ 12:23 (出 4:22 参).

### ③織田昭「新約聖書ギリシャ語小辞典」

πρωτότοκος,-ον : (< πρῶτος, 第一の, τίκτω, 産む) 最初に生まれた, 一番早く生まれた, 先立って生まれた ; [名] 初子, 長子 ; キリストについてこの語が使われるのはキリストが「…生まれた」(-tokos) ものであることを言うのではなく, その権威, 尊厳がまさに πρωτότοκοςの権威, 尊厳であることを表現する.

### ④Barclay M. Newman, Jr. 「Greek-English Dictionary」

πρωτότοκος,-ον : first-born, first; first-born Son (of Christ); πρωτότοκος πάσης κτίσεως existing before all creation or superior to all creation (Col 1.15)

### 3. 注解書による説明

#### (1) 新聖書講解シリーズ「ガラテヤ・エペソ・ピリピ・コロサイ」; P265 (いのちのことば社)

御子キリストによる救いは、神の創造と救済の遠大な御計画の一部にすぎない。その御計画において、御子は唯一無二の卓越した地位を占めている。パウロはここで宇宙論(15-17)と救済論(18-20)を展開している。まずキリストと創造とのかかわりを論じ、それからキリストと教会とのかかわりを明らかにしているのである。15-17節と18-20節は並行している。

15節と18節の両方に、「先に生まれた方」ということばがあり、また16節と20節にそれぞれ、「万物は、御子によって」「御子によって万物を」とあることからそのことが分かる。(途中省略)  
次に、御子は「造られたすべてのものより先に生まれた方」である(1:15)。私たち人間はみな神によって造られた被造物である。しかしキリストは被造物ではなく、生まれた方である。「生まれた者」と言うほかに、その起源を表現するすべはない。御子は万物が創造された時点で、すでに存在しておられたのである(1:17)。(以下省略)

#### (2) 実用聖書注解 ; P1325 (いのちのことば社)

御子イエス・キリストに関する知識 (1:15 - 23)

いよいよパウロは本論である教理の部分に入る。まず、キリストはどういうお方なのかが、コロサイ教会の実情に合わせて語られる。キリストは罪の赦し、贖いを、信じる者に与えられるお方であるが、ここではキリストは特に神の御子と言われ、御子は創造と和解のわざの主体として述べられる。

イエス・キリストは神の御子である。いかなる被造物とも区別されるお方である。〈見えない神のかたち〉(15)とは、模造や類似の意味ではない。「かたち」は、本質的、実質的に似たものである。人間が神の似姿であるというのとは異なる。人間があくまで神の似姿に創造された存在であるのに対し、御子の場合、創造に先立って神のかたちを有しておられたというのだから、ここでは本質においてかたちが似ているということである。

御子は他の被造物に先だって〈生まれた方〉(15)である。ここでは創造に先立つという点が重要である。「生む」という被造物の世界で起こる言葉が使われているが、これが時間に先立つ永遠の領域に属する神の固有の行為であることに注意しなければならない。また、生物界の法則を当てはめて、御父に対する御子の従属を引き出すことは出来ない。むしろ、創造に先立ってすでに永遠からいましたもう、すなわち「先在」のキリストと御父との深いかかわりを強調するものとするべきであろう。

「先在」のキリストは万物の創造者である。御子はいかなる被造物とも区別される。被造物に勝り、被造物に先だち、被造物の上に位置するお方である。従って御子は御父と共に礼拝され、崇拝されるべき方である。御子の神性を疑問視する立場を、パウロは明確に否定する。事実、コロサイを初めとして、初代教会にはキリストの神性を疑う教師たちが多く存在し、深刻な論争を巻き起こしていたのである。

御子は創造者としてあらゆるものを創造したが、その中には見えるものだけでなく、見えないものも含まれている。16節の〈王座〉以下に列挙されているものは抽象名詞でも一般的概念でもなく、〈見えないもの〉を詳述すると見てよい。それらは御使的存在である。このことを特に取り上げているのは、コロサイ教会に御使い礼拝の弊害が見られたからであろう。御使いは霊的存在として、力の上で人間に勝っているが、だからといって礼拝や崇拝の対象とされるべきで

はない。他の存在と同じように御子によって造られたのであり、被造性という点で人間と変わらないのである。御使いのような霊的な存在もまた御子のために造られた。つまり、御子の栄光を現すために御子自身が創造されたのである。

### (3) 新聖書注解・新約3 ; P50-51 (いのちのことば社)

次に、御子を〈造られたすべてのものより先に生まれた方〉と表す。この表現は新約時代ばかりでなく、教会史においてもたびたび誤解されたものの1つである。四世紀のアリウスは、申6:4、箴8:22、ヨハ14:28とともにこの表現に訴えて、キリストが「半神」であり、「天使の長」であり、「最高の被造物」であると考え、「彼の在らざりし時あり」とか、「生まれる前は、有らざりしなり」といった異端的な主張を公にした。これがきっかけとなって有名なニカイア会議（325年）が開かれ、キリストが十全な意味で神であることを告白することが、信仰の本質に属するものであることが再確認されたのである。

このパウロの表現を理解するにあたって、まず、コロサイの異端にもっと有利と思われるギリプロトクリストス（先に造られたもの）ということばを、パウロは使っていない事実に注目すべきであろう。さらに、この表現を含む文脈は、むしろキリストが創造以前から存在し、被造世界全体の創造者・保持者・究極目的であることを明示している。

18節にも出てくる〈先に生まれた方〉(ギリプロトコス)は、直接、時間とは関係のない名誉や栄誉の称号である。かつて神は、イスラエルを「わたしの子、わたしの初子」(出4:22)と呼び、ダビデを「わたしの長子とし、地の王たちのうちの最も高い者」(詩89:27)とするとされた。これらの場合、初子もしくは長子は、万物の相続者、任命された支配者を意味する特別な称号であって、時間的關係で用いられるものではない。パウロの言い方も、このような用法に従ったもので、被造世界全体との関係において、キリストは万物の相続者、任命された支配者として独自の立場と名誉とが与えられていることを意味するものである。

キリストの先在性という概念は、今日、ブルトマンなどによって、グノーシス贖罪神話から借りてきた神話的表像様式とみなされているが、先在をさまざまな関連において説いている次の聖書の証言は、はたしてそのように扱われてしかるべきものであろうか（詩72:7、ヨハ1:1以下、8:58、ヘブ1:2、10:5以下、黙1:17、2:8、22:13）。教理的に言えば、この先在を正しく理解することなくしては、意味ある形で受肉を語れなくなる。

### (4) BIBLE COMMENTARY by William MacDonald ; P1993-1994 (Thomas Nelson Publishers)

Christ is also **the firstborn over all creation**, or "of every created being." What does this mean? Some false teachers suggest the Lord Jesus is Himself a created being, that He was the first Person whom God ever made. Some of them are even willing to go so far as to admit that He is the greatest creature ever to come from the hand of God. But nothing could be more directly contrary to the teaching of the word of God.

The expression "firstborn" has at least three different meanings in Scripture. In Luke 2:7, it is used in a literal sense, where Mary brought forth her firstborn Son. There it means that the Lord Jesus was the first Child to whom she gave birth. In Exodus 4:22, on the other hand, it is used in a figurative sense. "Israel is My son, even My firstborn." In that verse there is no thought of an actual birth having taken place, but the distinctive place which the nation of Israel had in His plans and purposes. Finally, in Psalm 89:27, the word "firstborn" is used to designate a place of superiority, of supremacy of uniqueness. There God says

that He will make David His firstborn, higher than the kings of the earth. David was actually the lastborn son of Jesse according to the flesh. But God determined to give him a place of unique supremacy, primacy, and sovereignty.

Is not that exactly the thought of Colossians 1:15 - the firstborn over all creation? The Lord Jesus Christ is god's unique Son. In one sense all believers are sons of God, but the Lord Jesus is God's Son in a way that is not true of any other. He existed before all creation and occupies a position of supremacy over it. His is the rank of eminence and dominion. The expression **firstborn over all creation** has nothing to do with birth here. It simply means that He is God's Son by an eternal relationship. It is a title of priority of position, and not simply one of time.

### Ⅲ. まとめ

上記のギリシャ語辞典と注解書を合わせて、以下のようにまとめることができます。

#### (1) ギリシャ語辞典での比較

①玉川直重	②岩隈直	③織田昭	④Barclay
① [名] 長子、first-born (ルカ 2:7, ヘブル 11:28)	形 最初に生まれた; υἱός ～長男; ルカ 2:7. τα ~ α	[名] 初子, 長子; キリスト	first-born, first; first-born Son( of Christ) ; πρωτότοκος
② [名] (すべての被造物に 先だって生まれた) 長子(キリスト), the first-born(of all creation)	初子, 長子(すべて最初に 生まれたもの); ヘブ 11:28. 《比》ロマ 8:29, コ ロ 1:18 (「生まれる」とい う観念は殆どなく, 「最初 (第一)の[者]」の意, 1:15 も同様か), ヘブ 12:23 (出 4:22 参)	についてこの語が使われるの はキリストが「…生まれた」 (-τοκος) ものであることを言 うのではなく, その權威, 尊 嚴がまさに πρωτότοκοςの權威, 尊嚴であることを表現する.	πάσης κτίσεως <u>existing</u> <u>before all creation or</u> <u>superior to all creation</u> (Col 1.15)

#### (2) **Π**プロートトコスは、時間とは関係のない名誉や栄誉の称号である

コロサイ1:15の「先に生まれた方」(**Π**プロートトコス)は、直接、時間とは関係のない名誉や栄誉の称号を表す言葉であると解釈される。

#### (3) 神の御子キリストは決して被造物の一存在と考えるべきではない

それは当時のグノーシス説の思想であり、キリストの贖いだけでは不完全で様々な天使礼拝が必要だと考えるもの。

#### (4) **Π**プロートトコスには3つの異なった意味がある

「先に生まれた方」(**Π**プロートトコス)という表現は、ギリシャ語訳旧約聖書(70人訳)を含めて、少なくとも3つの異なった意味で使われている。

**第1**は、ルカ福音書2章7節。「男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。」

ここでの「初子」の意味は、マリヤが産んだ子どもの中で、主イエスは初子、長男であったということ。

第2は、出エジプト記4章22節。「そのとき、あなたはパロに言わなければならない。主はこう仰せられる。『イスラエルはわたしの子、わたしの初子である。』

ここでの「初子」の意味は、ルカ2章7節の意味とは異なる。すなわち、イスラエルは神が産んだ初子との意味ではない。それは、イスラエルの民は、「神の御計画と御目的のための特別な存在」であるとの意味である。

第3は、詩篇89編27節。「わたしもまた、彼をわたしの長子とし、地の王たちのうちの最も高い者としよう。」

ここでの「長子」の意味は、「最も高い者」と言われているように、「比類のない卓越した存在」という意味。神はダビデを地上のどの王よりも卓越した王にしよう、と語られた。ダビデ王の卓越性、優越性が強調されている。

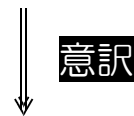
肉体的にはエッサイの息子としてのダビデは長子ではなく末っ子であった。しかし、神はダビデに特別な主権、首位権、統治権を与えた。それをプロトコスという言葉で表現している。

コロサイ1章15節後半の「御子は、造られたすべてのものより先に生まれた方です。」との御言葉は、上記の何番目の意味に入るものか。

1番目では決してない。すなわち被造物の中で最初に生まれた者との意味ではない。第2あるいは第3番目の意味、特に、第3番目の意味に入るもの。すなわち、御子キリストは、全被造物に対して、はるかに優る卓越した御方であり、首位権、統治権を持っておられるお方であるとの意味であると解釈される。

15節を上記のように理解すれば、以下の16節、17節にすんなり連結できると思います。

1:15 御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。



1:15 御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものよりはるかに優る卓越した御方です。

1:16 なぜなら、万物は御子にあって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も権威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです。

1:17 御子は、万物よりも先に存在し、万物は御子にあって成り立っています。